



義太夫協会会報
第109号

令和元年7月15日
一般社団法人義太夫協会発行
〒103-0023
東京都中央区日本橋本町3-1-6
日本橋永谷ビル210
Tel. 03 (6265) 1880
Fax. 03 (6265) 1881
http://www.gidayu.or.jp

『妹背山婦女庭訓』をめぐって

義太夫協会会長 原道生

今年の女流義太夫演奏会の五月公演は、十九日(日)の午後、紀尾井小ホールで催されました。念のため、当日の演目を御紹介しておけば、『妹背山婦女庭訓』四段目前半の「井戸替」「杉酒屋」、それに「道行恋苧環」の三段で、続く後半の「鱧七上使」「姫戻り」「金殿」の三段は翌六月の上演とし、二ヶ月がかりで四段目全体を完結させるという意欲的な企画です。

一方、丁度その同時期(五月十一日〜二十七日)、近くの国立小劇場では、文楽の五月公演として、やはり『妹背山』が上演されていますが、こちらは、さすがは文楽の本興行、大序の「大内」から四段目後半の「金殿」までのほぼ全段(途中「井戸替」のみをカット)を、一日のうちに原作通りの順序で通して演ずるといふスケールの大きなものでした。

どちらも、『妹背山婦女庭訓』という義太夫浄瑠璃屈指の大作にふさわしい取り組み方であったといつてよいでしょう。

そして、さらにもう一件付け加えるならば、これら二つの上演の二ヶ月前の三月十日には、これも『妹背山』の成立を山場とする大島真寿美氏の小説で、昨年約一年をかけて雑誌「オール读物」に連載されていた『渦 妹背山婦女庭訓 魂結び』が、改めて文藝春秋より単行本として刊行され、評判になっていたところなのでした。

そのため、ここで少々こじ付けければ、この出版社も紀尾井町にあるのですから、今年の初夏の紀尾井町から隼町の近辺には、久我之助や雛鳥、杉松にお三輪、ことによったら蝦夷子や入鹿、果ては近松半二などの霊が漂っていたのかも知れません。

余計な冗談はさて置き、話題を女流の五月公演に戻せば、そこでは、先にも一寸言及したように、今回の文楽では、多分時間の関係で、唯一カットされていた「井戸替」が、当方では出されていたということが注目されて

よいでしょう。この段は、それに先立つ三段目「山の段」が、二組の潔い武家の親子の愛の悲劇を格調高く展開させた時代物中の時代物として、観客皆を息詰まる程の深い感動へと導いた作品であったのに対し、今度はその雰囲気をガラリと一転させ、いつも酒屋の井戸を使わせてもらっている借家人たちが、その返礼のための井戸替え騒ぎに浮かれ立ち、最後はお振る舞いの酒盛りで酔態を演じたりする碎けた庶民の世界が明るく描き出されるという変化を楽しむ場面なのですが、歌舞伎・文楽でも割愛されがちで、ましてや女流の演目としては、本協会賛助会員の田村進一氏の御教示によりまずと、『妹背山』の他の場面は、本牧亭より後の平成時代に入ってからよく出るようになりはしたものの、それでも、この「井戸替」が出されたという記録がないとのことでした。

今回、このような稀曲に取り組むこととなった越孝さんは、酔いどれの表現の参考にするために、居酒屋での酔客の観察なども試みられたとのお話です。また、その他にも、いろいろと苦心談がありがたいようでしたが、それらは直接ご本人からお聞きいただくことにして、ともあれ、他の正会員の中にも、古い珍しい曲の伝承や新しい曲の創作に挑戦している方のおられることは存じておりますが、いずれもそれぞれに応じたやり方で、こうした地道な努力を積み重ねることにより、女流のレパートリーの基礎を広げ固めて行くという心掛けてくださるよう期待します。

(2019.7.15)

二〇一九年度通常総会

左記の通り二〇一九年度通常総会が開催され、全ての議案が承認されました。

期日：六月二十七日（木）十四時から十五時

会場：ビジョンセンター日本橋 会議室

第一号議案 「二〇一八年度事業報告」 承認

に関する件

第二号議案 「二〇一八年度決算報告」 承認

に関する件

第三号議案 「二〇一九年度事業計画」 承認

に関する件

第四号議案 「二〇一九年度収支予算」 承認

に関する件

法人化五十周年記念公演

義太夫協会は来年、法人化五十周年を迎えます。現在、委員会を設置し、記念公演や十年の歩みをまとめた冊子作成などの準備を進めております。記念公演は令和二年六月二十八日（日）、国立演芸場にて昼公演の予定です。詳細が決まり次第、ホームページやチラシにてお知らせ致します。

義太夫教室 七一期↓七二期

義太夫教室七一期は、三月十七日（土）に深川江戸資料館で卒業発表会を行い、翌週一日（木）に全日程を修了。皆勤の方も四名おられ、修了証とともに皆勤賞の義太夫かるとを授与されました。その後、引き続き各師

匠についてお稽古を続けている方もおり、今後OB会への出演が待望されます。

四月十三日（土）からは七二期入門コースが始まり、現在十七名の皆さんが、熱心に義太夫の講義と実技に取り組んでいます。

定期公演 新たな試み

昨年度の定期公演では初心者の方にも分かりやすい演奏会を目指し、「義太夫を楽しむためのレクチャー付き公演」を三回行いました。今年度は新たな試みとして、「みどり」（見取り）異なる演目の一場面ずつを組み合わせる上演方法）の際に、正会員が幕間、お客様の前に出て持ち回りで解説をしています（四・七月）。経験した会員からは、幕間の三分間で要領よく話をするのが難しかった、演奏でなく話でお客様と対するのは緊張した、などの意見が出ていました。

今年度は他にも、いよいよ近づいてきた東京オリンピックにちなみ、「泳ぐ」「射る」「走る」など、競技に関連する演目を集めた公演（九・十月）や、新しいNHK大河ドラマに関連して明智光秀を特集した公演（来年一月）などを予定しています。

解説ではこのような話が聞きたい、公演のテーマにこれはどうでしょう、など、ご意見やご要望がございましたら、是非事務局までお知らせください。

新入会員 自己紹介

今年度から入会させて頂いた竹本友里希（たけもとともりき）です。



私は淡路島で生まれ育ちました。淡路島では小中高と学校の部活動で人形浄瑠璃があり、私は中学校の時にその部活動に入り、浄瑠璃を始めました。

鶴澤友路師匠との出会いもその部活動でした。当時、友路師匠は週に一度、太夫・三味線のご指導をされていました。太夫を始めたばかりで何もわからない私に師匠は熱心に指導して下さいました。語る楽しさが分かってくるともつと語りの勉強がしたい、是非、友路師匠の元で教えて頂きたいという思いが強くなり、師匠の元へ弟子入りをさせていただくことができました。師匠はいつも「あと何年教えてやれるかわからん」とより熱心にご指導して下さいました。

こうして今も太夫を続けていけるのも、より語る楽しさを感じることができたのも師匠のおかげだと思います。私は友路師匠の最後の弟子になってしまいました。師匠から教えて頂いた事、学びとった事をいつまでも忘れずにこれからも精進していきたいと思えます。

義太夫協会の皆様及び関係各位の方々には今後ともよろしくお願い申し上げます。

NHKホールでの「新口村」

NHKディレクター 七海友信

昨年九月三十日、NHKホールでの古典芸能鑑賞会は、折からの台風直撃の予報で、やむなく公演は中止となった。そのため、竹本駒之助、鶴澤津賀寿お二人による『新口村』も観客なしで、番組用のテレビ収録だけを行う、異例の形となったのである。無人の客席に向かつての演奏は、さぞやりにくかったと思うが、義太夫節の真髄を聞かせてもらった気がする。



『新口村』といえば雪が付きもの。素浄瑠璃とはいえ、一面黒の背景に雪を段階的に降らせた。実は演奏山台は、はめ込み式になっており、床面は舞台奥まで傾斜をつけ、積もった雪がより見えるように、そして道行の印象を、そのスロープの奥行き感で演出した。

孫右衛門が語れなければ、本物の『新口村』にはならないわけで、今回の駒之助師の語る孫右衛門は、梅川への感謝、忠兵衛への慈愛という点で、誠に優れたものであった。そして老人を表現しながら

も、女流義太夫らしい色気、柔らか味が底流しており、まさに第一人者の至芸であった。「義太夫は難しい。とても到達できない。そこがいい」と素直に答える駒之助師。これからの生涯かけて道なき道を究めてほしい。

友路師匠を偲ぶ会

昨年十二月九日、友路師匠のお誕生日に、「友路師匠を偲ぶ会」を催させていただきました。演目は師匠が大好きだった『菅原伝授手習鑑』寺子屋の段。人手が少ない都合上、



前半は太夫、三味線混じりの掛け合いを人形の屋台の前で演奏し、後半は人形をつけて上演しました。友路師匠の「いろは送り」の弾き始めの掛け声と、ものすごく悲しい音色を思い出しながらの演奏でした。地元の方々もたくさん来てくださいました。師匠も天国で聞いてくれたでしょうか？もし勉強しなはれとおっしゃっているかもしれません。(鶴澤友勇)

八王子車人形 アメリカ・カナダ公演実施

二月二六日から三月十二日までの旅程で、ジャパン・ソサイエティー主催による八王子車人形と女流義太夫によるアメリカ・カナダツアー公演が実施されました。演目は『八百屋お七』『葛の葉』『釣女』のほか、源氏物語を題材とする新作『夕顔』（初演）の四曲のうち、日替わりで一〜三曲。西川古柳率いる八王子車人形に加え、女流義太夫からは竹本越孝、鶴澤三寿々、鶴澤弥々が参加しました。



メトロポリタン美術館にて

二月二八日からニューヨークでジャパン・ソサイエティー三公演とワークショップ&デモンストレーション、次いでボストンへ移動して三月五日にヒラリー・クリントン氏出身のウェルズリー大学で公演、続いてカナダのトロントへ移動し、八日に日系文化会館で公演、最後にニューヨークに戻り、十日にメトロポリタン美術館の「源氏物語展」に因んだ



New York, The 52nd Street Project にて ©John Quincy

企画でデモンストレーション演奏を行いました。チケットは事前に完売して公演は大盛況。移動十リ八十公演+デモと続きましたが、合間に観光を挟むなどして旅を満喫し、皆元気に帰国致しました。(鶴澤三寿々)

AMATERASU ZA 「COURIER OF LOVE 恋飛脚」 ニューヨーク公演

四月一日にニューヨークで、AMATERASU ZA「COURIER OF LOVE 恋飛脚」work in progressに参加しました。この作品は、近松門左衛門の「冥途の飛脚」をもとに、宝塚出身でニューヨーク在住の俳優/演出家、AMATERASU ZA 芸術監督のAkoさんが脚色をされました。芝居は十二人の日系人の役者さん達による英語のリーディング形式で、私は義太夫三味線の演奏で音楽を担当しました。「冥途の飛脚」の

オリジナルの旋律をベースに、場面に合わせて創作で音を入れる部分もあり、公演にむけての五日間の稽古は試行錯誤の毎日でした。役者さん達や、公演にご来場

いただいたお客様が、義太夫三味線に興味をもってくださったことはとても嬉しかったです。この公演をとおして、義太夫三味線のもつ豊かな表現力とその可能性を改めて感じ、私にとって大変貴重な機会となりました。(鶴澤津賀花)

竹本駒之助の会〜秦野〜

竹本駒之助の会 人間国宝の競演
竹本駒之助 吉田和生
5月6日 月曜
秦野市文化会館小ホール
「二人三番叟」「東大寺の段」「二月堂の段」

竹本駒之助 人間国宝
吉田和生 人間国宝

◆竹本駒之助(1913-2000) 長門県下関市生まれ。幼少より歌舞伎を習い、1930年代から活躍。1950年代に人間国宝に認定される。代表作に『二人三番叟』『東大寺の段』『二月堂の段』など。

◆吉田和生(1928-2018) 長門県下関市生まれ。幼少より歌舞伎を習い、1950年代から活躍。1980年代に人間国宝に認定される。代表作に『二人三番叟』『東大寺の段』『二月堂の段』など。

◆二人三番叟(1950年代) 長門県下関市生まれ。幼少より歌舞伎を習い、1950年代から活躍。1980年代に人間国宝に認定される。代表作に『二人三番叟』『東大寺の段』『二月堂の段』など。

◆東大寺の段(1950年代) 長門県下関市生まれ。幼少より歌舞伎を習い、1950年代から活躍。1980年代に人間国宝に認定される。代表作に『二人三番叟』『東大寺の段』『二月堂の段』など。

◆二月堂の段(1950年代) 長門県下関市生まれ。幼少より歌舞伎を習い、1950年代から活躍。1980年代に人間国宝に認定される。代表作に『二人三番叟』『東大寺の段』『二月堂の段』など。

◆二人三番叟(1950年代) 長門県下関市生まれ。幼少より歌舞伎を習い、1950年代から活躍。1980年代に人間国宝に認定される。代表作に『二人三番叟』『東大寺の段』『二月堂の段』など。

◆東大寺の段(1950年代) 長門県下関市生まれ。幼少より歌舞伎を習い、1950年代から活躍。1980年代に人間国宝に認定される。代表作に『二人三番叟』『東大寺の段』『二月堂の段』など。

◆二月堂の段(1950年代) 長門県下関市生まれ。幼少より歌舞伎を習い、1950年代から活躍。1980年代に人間国宝に認定される。代表作に『二人三番叟』『東大寺の段』『二月堂の段』など。

去る五月六日、秦野市文化会館小ホールにて、「竹本駒之助の会 人間国宝の競演」が開催されました。主催は、秦野市文化会館事業協会です。開催にあたり主催者は、秦野市在住の駒之助が市内の学校で、義太夫節の普及活動にも貢献している事にふれ、本公演は「次世代の文化を担う子供たちと市民の皆様」に日本の伝統芸能に親しんでほしいという駒之助師の願いが込められている」とコメントしています。当日は、『二人三番叟』に始まり、『良弁杉由来』から『東大寺の段』『二月堂の段』と『新曲釣女』。そのほか、水野悠子氏による解説や

人形の解説も付くプログラムとなりました。駒之助は、二人三番叟と二月堂の段を語り、二月堂の演奏後は、満席のお客様の拍手が鳴りやまず、会場が熱気に包まれました。文楽の人形の解説は、普段若手が勤めることが多いところを、今回は和生師自ら担当する豪華版。又釣女では、足遣いを和生師と玉男師が担い、そのことを水野氏が披露すると、皆さん人形の一挙手一投足を、より注目してご覧になったようです。三時間半に及ぶ盛りだくさんの内容となった令和初の駒之助の会も、温かい観客に見守られ無事終了しました。(竹本佳之助)

神楽坂まち舞台

例年、秋に行われていた「神楽坂まち舞台」、今回から時期が五月となり、十一日(土)・十二日(日)の二日間開催されました。十二日の毘沙門天善國寺野外ステージでは、講談・浪曲・琵琶と共に義太夫が登場。竹本京之助・鶴澤賀寿が三回の舞台を勤めました。年々多くなる外国人のお客様



(2019.7.15)

に向け、二回目の解説を英語で行いました。賀寿の英文・京之助のイラストによる解説プリントも作成。日本人のお客様も興味津々で『傾城阿波の鳴門』に耳を傾けて下さいました。衣裳にも注目して頂くとうと、肩衣を毎回替える旨を告知したところ、何度も足を運んで下さる方が沢山いらっしゃいました。

神楽坂のあちこちで様々な演奏・パフォーマンスが楽しめるお祭りのような二日間。今回は外国人のお客様に加え、小さいお子さん連れの方が飛躍的に増えたように感じました。回数を重ねることでイベントとして定着、認知度が上がってきたということなのでしょう。日本の伝統音楽・伝統芸能を気軽に楽しめる場として、とても貴重な催しだと感じました。

(鶴澤賀寿)

『新浄瑠璃 百鬼丸』

劇団扉座による『新浄瑠璃 百鬼丸』(竹本葵太夫・浄瑠璃作曲・指導、鶴澤慎治・三味線演奏)の公演が五・六月にありました(座・高円寺ほか)。手塚治虫の『どろろ』原作のこの作品は今回が十年ぶり三回目の上演。父・醍醐景光が天下統一を狙い、魔物と契約した代償に、体の四十八の部分の助けを借り、少した百鬼丸が泥棒・どろろの助けを借り、少しずつ本来の姿を取り戻していく物語です。劇中、義太夫が多用され、いわゆる「糸に乗る」動作など、歌舞伎的な演技が随所に見られました。また画期的なのが「浄瑠璃コロ

ス」。ギリシヤ悲劇のコロス風集団で義太夫を表現するシーンでは、扉座が五十才以上を対象に創設したばかりの「すみだパークスタジオ演劇部」や市民有志など、幅広いメンバーが上演各地で熱い語りを披露。このような形で義太夫に親しむ人が増えるのは、とても喜ばしいことだと感じました。(鶴澤賀寿)

新作舞踊『檜男』ピノキオ』

デイズニー好きでつとに知られる私ですが、長いお付き合いの舞踊家西川扇与一さんから、舞踊の新作でピノキオをやるうと思っているという連絡を受けた時は、天にも昇る心地でした。しかも、檜に☆をつけて「ピノキ」、男で「オ」、ジミニークリケットというコロロギは、こおろぎ安！ いかにも、日本の文化らしい本歌取り、洒落、パロディです！

おじいさん役に重鎮の、彦三衛門先生、清方先生がご出演で、お二方とも、遥かに後輩の、作演出の扇与一さんや、振付の昌太朗さん、振付補の里次朗くんたちに謙虚に向き合っている、場面を作っていく。扇与一さんの描く「独居老人の夢」という視点を明確に受け取って表現、それがビシビシ伝わります。聞けば、舞踊協会の新作は五十年の歴史があり、扇与一さんはそのうちの四十年を、先輩方を作る現場で体感してきたそうですし、おじいさん役のお二方も、新作を手がけていらしたのだそうです。稽古が進むと、直接関わっていない先生方も稽古を見て、その意見を真摯に聞

いて改善していく。録音に参加した京之助が、音が大好きな人が集まって素敵だ、と言っていましたが、まさに、舞踊を愛する人たちの集まった熱い現場でした。

肝心の音楽については紙幅が足りませんので、音楽の麻吉文さん(虹色の熊さんのキヤラで有名なCMの方です!) 扇与一さんの明確なイメージの下、仕事させていただけただけの幸せのみ書き留めておきます。(鶴澤津賀寿)

「女流義太夫入門講座」開催 於 蕨市立文化ホールくるる 会議室

第十三回若手女流義太夫勉強会「花のように香れ」公演(六月二十八日開催)から課題曲が『一谷嫩軍記 熊谷桜の段』となりました。この物語に登場する熊谷次郎直実は現在の埼玉県熊谷市にゆかりがあること、また、蕨市及び近郊在住の集客増加を目指し、六月六日(木)に公演に先立って初めて「女流義太夫入門講座」を開きました。

講座内容は、「女流義太夫」「一谷嫩軍記」についての演奏を交えながらの解説、熊谷直実ゆかりの史跡案内、熊谷市の権田酒造の銘酒「直実」の試飲でした。定員近い参加者数となり、賑やかに終えることが出来ました。

夏の一日体験教室のご案内

今年の八月は、義太夫一日体験教室が二つ開催されます。義太夫ってどんなものなる

(2019.7.15)

う？ ちよつと体験してみたい初めての方、
久々に弾いてみたい、語ってみたいという方、
また、より深く義太夫三味線を知りたいとい
う方も、ぜひお気軽にご参加ください。

●義太夫一日体験教室 八月三日(土)

「三味線」午前十一時から十二時三〇分 講師：
鶴澤寛也 定員：十八名 料金：四〇〇〇円

「語り」午後一時三〇分から午後三時 講師：竹
本越若 定員：三〇名 料金：三〇〇〇円

●義太夫三味線一日体験 特別編

義太夫三味線の魅力をたっぷり味わっていた
だく企画です。

日時：八月十日(土) 午前十一時から午後三時
(途中休憩あり) 講師：鶴澤津賀寿・鶴澤三
寿々・竹本越孝 対象：四〇歳までの男女 定員：
一定数に達し次第締切 料金：一般 三〇〇〇円、
学生 二〇〇〇円、聴講 一〇〇〇円

いずれも会場：豊川稲荷文化会館三階

(東京都港区元赤坂一―四―七)

お問い合わせ・お申し込み：義太夫協会

電話 03-6265-1880 FAX 03-6265-1881

メール am-giday@gidayu.or.jp

ラジオ深夜便

四月二二日の早朝、NHKラジオの人気番
組「ラジオ深夜便」の【につぼんの音】コー
ナーに竹本越孝が出演しました。案内役は、
能楽の狂言方である大藏基誠(もとなり)さ

ん。番組の担当の方が私の舞台を一、二度お
聴きになったことがあるとかで、このお話を
頂きました。

基誠さんから、義太夫節の特徴や義太夫の
道に入ったきっかけなどの質問があり、それ
に答えていくという感じで進みました。

途中五分ほど、『寺子屋の段』のCD(私
と三寿々さんの演奏)が流れたので、女流義
太夫をご存知ないリスナーの方にも、雰囲気
が少し分かって頂けたのではないかと思います。

放送時間は四十分ほどでしたが、実は収録
では一時間半も喋ってしまいだいぶカットさ
れています。そのカット部分で、「どんな気持
ちで義太夫をやっているか？」という質問が
ありました。「芸というのは毎日の積み重ねで
時間のかかるもの。自分のために芸を磨いて
いくことで、最終的にお客様に喜んでもらえ
るようになったら、とても嬉しくありがたい
こと。芸の職人でありたいと思います」とお
返事したところ、基誠さんが大変共感して下
さいました。ジャンルは違っても芸人同士は
通じるものがあるなあ、と改めて感じました。

さて聴かれた方の感想ですが、「入門した
経緯が面白かった」「先輩の論文の手伝いで義
太夫を調べるため、電話帳で「竹本」を引い
て見つけた竹本越道師匠のところへ伺ったら、
そのまま稽古が始まりずると入門してしま
った」「舞台と普通に話す声が違いすぎる。
本当にあなたなんですか？」など、皆様楽し
んで下さったようでした。

この放送がきっかけで、舞台にも足を運ん
で下さる方が増えるといいなあと思っていま
す。
(竹本越孝)

義太夫との出会いと今日

酒と器を愉しむ押上文庫店主 竹下文庫
邦楽とは無縁の私が文楽、義太夫に興味を
持ちましたのは、土門拳の有名な写真集、「文
楽」との出会いが最初だと記憶しております。

音曲としては、フランスのピアニストア
ルフレッド・コルトーが来日した際、文楽の
公演を観劇し義太夫の持つニュアンスの豊か
さを称賛しており、その話を耳にいたしました
から熱心に聴くようになりました。(彼は能
に関してポール・クロードルの戯曲の様で
理解し難いとも言っておりますのでお世辞で
はないと思われまます。)

ついには公演だけではなく、古い音源まで
集めるまでになり、関川勝夫氏の力をお借り
いたしました。蓄音機によるコンサートを開催
し、義太夫を含む邦楽の歴史と人の厚みを感じ
ていただいております。

私の店があります向島地域は「浄瑠璃素人
講釈」の著者 杉山其日庵の住まいのあった場
所。そちらで御縁ありまして竹本越孝さんに
義太夫塾「夢孝房」、鶴澤津賀榮さんに三味線
教室を開いていただいております、義太夫の灯を
ともしていただいております事は有難い事だ
と感じております。

今は義太夫を知らない方にも興味を持つ



『伽羅先代萩』解説中の一コマ

◎福田知弘

ていただき、公演に足を運んでいただける様にお声がけしていきたいと思っております。

橋本治さんを偲んで

一月二十九日、作家の橋本治さんが肺炎のためお亡くなりになりました。享年七十。

東大国文科在学中にイラストレーターとしてデビュー（歌舞伎座『當世流小栗判官』のものすごく繊細で美しいポスターもあります！）、切り絵も素晴らしく、卒論は四代目鶴屋南北。そして『桃尻娘』で小説家として活動開始。歌舞伎、文楽ほか様々な古典芸能に明るく、琵琶の詞章や講談を書かれたり、映画、漫画、編み物、日本美術、歴史、時事問題、人生相談 etc... どのジャンルでもピカイチの仕事をする、天才中の天才でした。その橋本さんの初女流義太夫体験は、竹本

駒之助師匠の『ひらかな盛衰記』神崎揚屋の段（二〇〇六年）で、駒之助師匠の第一声「世なりけり」に衝撃を受けられます。

【始まってびっくりしたーうっとりしたと言ってもいい。大夫の竹本駒之助（言うまでもなく女性）の語る『世なりけり』が、「前段の結び」ではなく、「いきなりの結論」のよう聞こえたのである。つまり、私の耳には、「それは、こういう世の中なのである」という、夜の中に佇む光り輝く遊里の情景を説明するようなものとして聞こえたのである。（音色と文体―女流義太夫を聴いて―より引用）】
めでたく女義に開眼？なされた橋本さんは、その後私共の活動にも色々関わって下さいました。

二〇一〇年九月義太夫協会定例公演『伽羅先代萩』御殿く政岡忠義の段では解説にご出演、「江戸時代のキャリアアウーマンが仕事に集中しすぎて子供を巻き込んだ悲劇」と読み解かれ、「江戸時代の武家の物語が自分たちの事として身近に感じられた」とお客様の間でも大変評判になりました。
最後に橋本さんの膨大な著作から、古典芸能に関するもののほんの一部をご紹介します。ぜひお手にとってみて下さい。

- 『浄瑠璃を讀もう』（新潮社）
- 『義太夫を聴こう』（河出書房新社）
- 『近松門左衛門』（新潮社）原道夫編／橋本治 エッセイ
- 『音色と文体―女流義太夫を聴いて』『文學界』二〇〇六年九月号（文藝春秋）
- 『大江戸歌舞伎はこんなもの』（筑摩書房）
- 『橋本治・岡田嘉夫の歌舞伎絵巻』仮名手本忠

臣蔵・義経千本桜・菅原伝授手習鑑・国姓爺合戦・妹背山婦女庭訓（ポプラ社）

『橋本治歌舞伎画文集―かぶきのような分らん』（演劇出版社）

『河原久雄文楽写真集』（日本経済新聞出版社）

※構成・文
一見辛口ですが本当に優しい方でした。心からの感謝とともに、ご冥福をお祈り申し上げます。（鶴澤寛也）

連載 名優と義太夫節

【第二回】六代目尾上菊五郎

前回の初代吉右衛門に続き、「菊吉」と並び称された六代目菊五郎と義太夫節について。

義太夫狂言を得意とする吉右衛門に対し、江戸の世話狂言や舞踊を得意とした菊五郎であるが、義太夫狂言の演出の見直しをいくつか行っている。残念ながら細部の伝承が途絶えた演目もあるが、「吃又」「竹に雀」「野崎村」等は今に「六代目型」として遺り、筆者もその後継者である二代目尾上松緑や七代目尾上梅幸の舞台を勤めた経験がある。菊五郎は従来の歌舞伎化された作品を改めて本格的義太夫節と照らし合わせ、役の性根を吟味し、それから派生する演技や竹本の旋律を見直した。折々は研究のために文楽座の大夫・三味線を料亭の座敷に招いて一門とともに演奏を聴いたが、こうしたとき菊五郎は皆に率先して座

(2019.7.15)

布団を外し、その芸に対して敬意を示した。

実際の舞台を勤める三味線は、市村座時代より信任厚い鶴澤市作であったが、太夫は文楽座で修業を積んだ竹本鏡太夫を迎え厚遇した。鏡太夫は大音強声の資質を活かし、大いに舞台を盛り上げた。この竹本連中の協力で、他にも「合邦」「堀川」等を上演した。菊五郎は、目をかけていた囃子の九代目望月太左衛門・清元の清元栄寿郎、そして鏡太夫の三人に、「お前たち、安く売るなよ」と言っていたが、鏡太夫は出入りの激しい人で、菊五郎はもう一人しつかりした専属の太夫を欲しいと思ひ、臨時加入して先輩の代役をこなした先代葵太夫を勧誘した。「六代目は飽きっぽい」という話を聞いていた葵太夫は、高島易断の鑑定に良い卦が立ったので話を受け、芝公園の菊五郎邸で弟子免状と紋服を授与され、以後、菊五郎家定紋「重ね扇に抱き柏」にちなんだ竹本扇太夫を名乗り活躍した。「いいかい、お前のあとにまた誰か入ってくるかもしれない。だけどお前はお前の分だけきちんと務めたらいいんだよ」と言われたという。このときに鶴澤八重造も扇糸の名前を授けられたが、戦後は吉右衛門一座を主に活動した。

扇太夫は菊五郎最期の舞台の「寺子屋」を語ったが、菊五郎が病氣休演すると源蔵役の吉右衛門が松王に直り、竹本も扇太夫から吉右衛門付きの太夫に交代した。この辺が「俳優に付く」という歌舞伎竹本らしいところである。菊五郎は相手を芸名でなく本名で呼ぶ

ことが多く、扇太夫がうっかり社会の窓を開けていると、「神谷ッ。前！」と注意したという。

菊五郎が師匠に付いて義太夫節を稽古した話は伝わっていない。しかし芸の勘が鋭い人だったから、演奏を聴いて的確な注意をしたという。菊五郎一座は菊五郎没後に「尾上菊五郎劇団」と改称され、梅幸・松緑を中心に公演を継続した。若手俳優のために鏡太夫は楽屋内で「義太夫教室」を開催し、曲を憶えるというより、義太夫節の技巧を教えた。鏡太夫・扇太夫・松太夫、市作・松三郎・猿若らの竹本連中が、菊五郎没後の義太夫狂言を支えた。

七代目松本幸四郎一家は関東大震災罹災の後にしばらく大阪新町へ移住した。このとき東京からの転校生藤間豊君こと松緑をいじめから守ったのが、同級生の西谷英二君であった。西谷君はのちに鶴澤英治として竹本入りして松緑と再会。「ご学友」と呼ばれた。松緑は大阪時代に二代目野澤喜左衛門から「十種香」の稽古を受けている。後年、清元栄寿郎に心酔して清元三味線の稽古にも励み、三味線も多数収集。延棹の義太夫三味線も所持していて、竹本連中に「これで弾いてみてくれ」と弾かせたこともあった。

梅幸夫人の縁戚に、一時期歌舞伎俳優として中島三甫右衛門（みほえもん）を名乗って

いた鈴木新助がいた。義太夫節を愛好し、昔風の「アーッ」と派手に掛声する三味線を好んでいたもので、梅幸に奨めて英治や重松を起用したことがある。アナウンサーで歌舞伎解説もする鈴木治彦はその子息である。

「六代目型」の伝承が近年崩れかけているように筆者は感じている。墨守しなければいけないとは思いますが、俳優個々に合う合わないということもあり、せめて竹本関連だけでもきちんと整理だけはしておきたいと考えている。
(歌舞伎義太夫太夫 竹本葵太夫)

■協会・正会員の主な動き■

平成三十一年一月～令和元年六月

【公演】

義太夫協会／義太夫節保存会主催公演

「女流義太夫演奏会」

一月二十日（日）お江戸日本橋亭

二月二十一日（木）国立演芸場

*第三八回伝承者研修発表会

三月二十日（水）お江戸日本橋亭

四月二十日（土）お江戸日本橋亭

五月十九日（日）紀尾井小ホール

六月二十日（木）お江戸日本橋亭

正会員主催公演（協会後援分）

依頼公演・協力公演（*印）

「ぎだゆう座」 お江戸上野広小路亭 二月

一・二日、四月一・二日、六月一・二日

「じよぎ」 お江戸上野広小路亭 三月一・二日、五月一・二日、七月一・二日
 「第五回 弓弦葉の会」 一月十三日(日) 紀尾井小ホール

「粹でお洒落な女義ライブ其の七」 一月二六日(土) 回向院

「第三回瑠璃の会」 三月二日(土) 大阪・文楽劇場小ホール

「第四九回邦楽演奏会」 三月三十日(土) 国立劇場小劇場*

「第十七回はなやぐらの会」 四月七日(日) 紀尾井小ホール

「第二回女流義太夫と上方舞」 四月二三日(火) 橋楽亭

「竹本駒之助の会 人形浄瑠璃人間国宝の競演 竹本駒之助×吉田和生」 五月六日(月) 秦野市文化会館小ホール

「義太夫ひとつの試みその一」 五月二六日(日) お江戸日本橋亭

【普及】

義太夫協会主催教室

◆義太夫一日体験教室

二月十日(日) 芸能花伝舎

講師 竹本越若・鶴澤弥吉

三月二三日(土) 豊川稲荷文化会館

講師 竹本越京・鶴澤寛也

文化庁委託事業義太夫教室

◆第七一期義太夫教室 実践コース(後期)

一月十日・三月二一日(週一日・木曜)

豊川稲荷文化会館

(卒業発表会・OB会) 三月十六日(土) 深川江戸資料館小劇場

◆第七二期義太夫教室入門コース

講師 竹本越若・竹本越京・鶴澤寛也

四月十三日・七月二七日(週一日・土曜)

豊川稲荷文化会館

【運営】

平成三十年度第四回理事会

三月二五日(月) 日本橋永谷ビル会議室

平成三十一年(令和元年)度第一回理事会

六月二七日(木) ビジョンセンター日本橋

令和元年度通常総会

六月二七日(木) ビジョンセンター日本橋

【放送・放映】

◆ケールブルネットワーク淡路「竹本駒之助師南あわじ市名誉市民称号授与式 記念演奏会」

一月一日(火)・六日(日)

◆NHK FMラジオ「邦楽のひととき」

一月九日(水) 『新版歌祭文』野崎村の段

浄瑠璃・竹本越若

三味線・鶴澤駒治 ツレ・鶴澤賀寿

三月二七日(水) 『生写朝顔話』宿屋の段

浄瑠璃・竹本越孝 三味線・鶴澤寛也

◆NHK FMラジオ「邦楽百番」

一月十二日(土) 『姫山姥』

浄瑠璃・竹本駒之助

三味線・鶴澤津賀寿 ツレ・鶴澤寛也

◆NHK ラジオ第一・FMラジオ深夜便「にっぽんの音」竹本越孝

■今後の協会・正会員の予定■

令和元年七月・十二月

【公演】

義太夫協会／義太夫節保存会主催公演

「女流義太夫演奏会」

七月二十日(土) お江戸日本橋亭

八月十九日(月) 国立演芸場 ※若手勉強会

九月二十日(金) お江戸日本橋亭

十月二十日(日) お江戸日本橋亭

十一月二十日(水) お江戸日本橋亭

十二月十四日(土) 紀尾井小ホール

正会員主催公演(協会後援分)

「じよぎ」 お江戸上野広小路亭 七月一・二日、九月一・二日、十一月一・二日

「ぎだゆう座」 お江戸上野広小路亭 八月一・二日、十月一・二日、十一月一・二日

「女流義太夫スペシャルライブ Vol.9」 八月九日(金)、十日(土)、十一日(日) 神楽坂ザ・グリ

「女流義太夫 悲嘆と憤怒」 九月二三日(月・祝) 浅草公会堂第二集會室

「第十二回竹本土佐恵の会」 十一月九日(土) 内幸町ホール

「第三回女流義太夫と上方舞の会」 十一月二七日(水) 橋楽亭

【普及】

義太夫協会主催教室

◆義太夫一日体験教室

八月三日(土) 豊川稲荷文化会館
講師 竹本越若・鶴澤寛也

◆義太夫三味線一日体験特別編

八月十日(土) 豊川稲荷文化会館
講師 鶴澤津賀寿・鶴澤三寿々・竹本越孝

文化庁委託事業義太夫教室

◆第七二期義太夫教室 実践コース(前期)

九月七日〜十二月二日(各土曜日)

豊川稲荷文化会館

講師 竹本越若・竹本越京・鶴澤寛也

【その他事業】

祖先祭 十月十四日(月・祝) 回向院

■寄付・寄贈■

平成三十一年一月〜令和元年六月

左記のご寄付ご寄贈を頂戴いたしました。
誠に有難うございました。

日本素義会様 五万円

島村明様 見台朱塗り千鳥蒔絵、象牙撥(ハ

ギ)、床本・稽古本・懐中稽古本一式二五冊

河野哲丸様 クリアファイアル二種千枚製作

渡部洋子様 義太夫協会旧蔵写真デジタル

化一式

『知られざる芸能史 娘義太夫』待望の電子化！
水野悠子さんの『知られざる芸能史 娘義太

夫』(中公新書)が電子書籍になりました！
ネット書店でお求め頂けます。七八〇円＋税

会報編集委員／鶴澤寛也・竹本佳之助

鶴澤賀寿・竹本駒佳・竹本越里

酒処
押上文庫

〒131-0045
東京都墨田区押上3-10-9
Tokyo Skytreeから徒歩8分!
TEL: 03-3617-7471
E-mail: oshiagebunco@gmail.com

＊ ＊ 義太夫協会音源シリーズ ＊ ＊
義太夫協会記録音源復刻
オンデマンド CD ラインナップ
好評発売中！

●壺坂観音霊験記 沢市内より壺坂寺の段 ●新版歌祭文 野崎村の段 ●絵本太功記 尼ヶ崎の段 ●御所桜堀川夜討 弁慶上使の段／伊賀越道中 双六 千本松原の段 ●生写朝顔話 宿屋より大井川の段 ●艶容女舞衣 酒屋の段 ●義経千本桜 鮎屋の段 ●近頃河原達引 堀川猿廻しの段 ●ひらかな盛衰記 松右衛門内の段 ●伊賀越道中 双六 岡崎の段／花上野誉碑 志度寺の段 ●伊勢音頭恋寝刃 油屋の段

オンデマンド(受注生産方式)CD-R 盤
定価 1,500円(税込) 送料等別

* 詳しくは義太夫協会へお問い合わせ下さい

義太夫用三味線・張替、水牛駒・見台・湯呑、制作修理 その他、各流三味線及び付属品の御注文承ります。

きむら

〒151-0066 東京都渋谷区西原 1-26-14
TEL/FAX 03-3466-2156
P.H.S 070-5457-5687
kimura-wanoshirabe@nifty.com

山料理

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂四-2-11
TEL/FAX 03(三三二六)五〇一

暑中お見舞 申し上げます

日本素義会

第111回 令和元年10月6日(日) 開催
新加入 大歓迎！ふるってご参加ください
詳細は菅野昌行まで



神楽坂
つなしょうテラス
TSUNASHO TERRACE

3階 うぐいす
焼鶏 ワイン

2階 ふしきの
懐石 日本酒

1階 レ・ピコロ
ビストロ ワイン

竹本綱昇 女流義太夫ゆかりのビル

竹本綱昇(たけもとつなしょう)
平成20年死去。享年98歳。
昭和期人気の女流義太夫界で活躍。
綱昇の名は、文楽三味線の重鎮・
四世鶴澤綱造と明治期女流義太夫界の
スター・豊竹昇之助から一字ずつ
貰ったもの。
建物入り口には、竹本綱昇の足跡と
女流義太夫の歴史を記した記念碑が
あります。ぜひご覧ください。



JR・地下鉄「飯田橋」駅下車 徒歩5分

東京都新宿区神楽坂4-3-11 神楽坂つなしょうテラス

永谷 暑中お見舞い申し上げます

お江戸日本橋亭 お江戸上野広小路亭

お江戸両国亭 新宿永谷ホール

永谷商事株式会社 会長 永谷浩司

〒180-0004 武蔵野市吉祥寺本町1-20-1 0422-21-1796 <http://ntgp.co.jp/engei/>



地域と共に歩む 不動産賃貸業

株式会社 オータカ

取締役会長	渡辺 康成
代表取締役	渡辺 貞穂
常務取締役	高山 早苗

〒351-0011 埼玉県朝霞市本町2-5-31
TEL 048-466-2220 FAX 048-466-2684